令和5年度　新川みどり野高校　年間指導計画（シラバス）

学科	教科	科目（講座名）	対象学年	単位数	教科書	使用教材
普通科・福祉教養科	保健体育	保健	全	2	高等学校 保健体育 Textbook（第一学習社） 高等学校 保健体育 Activity（第一学習社）	なし
学習の到達目標	・健康や安全について体系的に理解を深め、実践していくための技能を身に付ける。 ・健康について、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向け考え、自己の考えを他者に伝える。 ・自他の健康やそれを支える環境について、主体的に情報を収集したり、自らの考えをまとめたりする。					

学期	月	単元		到達度目標（学習のねらい）
前期	4月	第1章　現代社会と健康 第1節　健康の考え方	・国民の健康水準の向上と変化する健康課題 ・健康の保持増進とヘルスプロモーション	・日本の健康水準が向上してきた理由を説明できる。 ・ヘルスプロモーションの進め方を説明できる。
	5月	第2節　現代の感染症とその予防	・感染症の予防 ・性感染症とその予防	・感染症の予防のための対策を説明できる。 ・性感染症やエイズについて基礎知識を身に付け、予防対策を考えることができる。
		第3節　生活習慣病などの予防と回復	・生活習慣病の予防 ・食事と健康 ・健康と運動・休養・睡眠 ・がんの発生と予防	・生活習慣病を予防するために自分の生活習慣を振り返ることができる。 ・食事の重要性を理解し、正しい食生活を説明できる。 ・健康から見た運動・休養・睡眠の役割を説明できる。 ・がんの予防のための対策を説明できる。
	6月	第4節　喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用とその防止	・喫煙の影響を理解し、喫煙対策の取り組みを説明できる。 ・飲酒の影響を理解し、具体的な対策を自分に関わらせて考えることができる。 ・薬物乱用が起こす社会問題を理解し、防止のための取り組みについて考えることができる。
		第5節　精神疾患の予防と回復	・脳と神経の働き ・欲求不満と適応機制 ・心の健康と精神疾患 ・精神疾患の予防と回復のために	・脳の働きを理解し、自律神経系とホルモンの機能について説明できる。 ・人間の欲求の種類と欲求の生じ方について理解し、不安や悩みに対する適応機制の例を説明できる。 ・心の不調と体の不調の関わりについて理解できる。 ・自分にとって望ましいストレスへの対処方法を考えることができる。
	7月	第2章　安全な社会生活 第1節　安全な社会づくり	・交通事故と安全の確保 ・安全・安心な社会づくり	・交通事故の特徴や原因について説明できる。 ・災害から身を守るための社会的対策について理解できる。
	9月	第2節　応急手当	・適切な応急手当の手順 ・心肺蘇生法の実践 ・日常的な応急手当	・応急手当の意義や手順を説明できる。 ・心肺蘇生法ができる。 ・けがや熱中症の手当てについて説明できる。
後期	10月	第3章　生涯を通じる健康 第1節　生涯の各段階における健康	・思春期と健康 ・思春期の体と健康 ・結婚生活と健康 ・新しい生命の誕生 ・家族計画と不妊治療 ・加齢と健康	・思春期の心の変化について理解し、性に関する情報が及ぼす影響について説明できる。 ・思春期の体の変化について理解し、適切な性行動について説明できる。 ・健康な結婚生活の留意点や家族の健康づくりについて理解できる。 ・受精・妊娠・出産の過程を理解し、健康のための支援について説明できる。 ・家族計画の意義を理解し、人工妊娠中絶や不妊治療の問題点について説明できる。 ・加齢にともなう健康課題について説明できる。
	11月			
		第2節　労働と健康	・労働者の健康・安全と健康問題 ・労働災害・職業病とその予防 ・労働者の健康づくりと「働き方改革」	・労働環境の変化や過重労働・ストレスによる健康問題について理解できる。 ・労働災害や職業病の予防について説明できる。 ・労働者の健康のための社会的取り組みについて理解できる。
	12月	第4章　健康を支える環境づくり 第1節　環境・食品と健康	・環境汚染の広がりとその影響 ・大気汚染の健康への影響と対策 ・水質汚濁と土壌汚染の健康への影響と対策 ・廃棄物の処理と健康 ・環境衛生活動 ・食品の安全性の確保	・環境汚染による生態系への影響について理解できる。 ・大気汚染による健康被害について理解し、防止対策について説明できる。 ・水質汚濁・土壌汚染による健康影響について理解し、防止対策について説明できる。 ・不適正処理の廃棄物による環境汚染について理解できる。 ・ごみの処理と減量への取り組みや上下水道・汚水処理について理解できる。 ・食品の安全性のための対策を考えることができる。
	1月			
	2月	第2節　保健・医療制度と機関	・保健・医療制度 ・地域の保健機関・医療機関の活用 ・医薬品と健康 ・さまざまな保健活動や社会的対策 ・健康に関する環境づくりと社会参加	・保健行政について理解し、医療保険制度のしくみについて説明できる。 ・保健所や保健センターのサービスを理解し、適切な保健・医療機関の活用について説明できる。 ・医薬品の正しい使い方や医薬品による身体への影響について理解できる。 ・日本や世界においてどのような保健活動や対策が行われているか理解できる。 ・身のまわりの環境のなかでよりよい生活習慣づくりのための行動について考えることができる。